

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2019年7月26日
【事業年度】	第4期(自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)
【会社名】	株式会社東京クラシック
【英訳名】	TOKYO CLASSIC CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小島 拓之
【本店の所在の場所】	大阪府中央区伏見町四丁目4番9号淀屋橋東洋ビル9F
【電話番号】	06-4963-3560
【事務連絡者氏名】	小島 拓之
【最寄りの連絡場所】	大阪府中央区伏見町四丁目4番9号淀屋橋東洋ビル9F
【電話番号】	06-4963-3560
【事務連絡者氏名】	小島 拓之
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第1期	第2期	第3期	第4期
決算年月	2016年4月	2017年4月	2018年4月	2019年4月
売上高 (千円)	-	1,477,801	1,012,898	890,123
経常利益又は経常損失() (千円)	124,652	27,578	208,825	269,855
当期純利益又は当期純損失() (千円)	126,018	32,368	210,851	269,741
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-
資本金 (千円)	554,000	1,967,000	100,000	100,000
発行済株式総数 (株)	808	1,020	1,110	1,110
純資産額 (千円)	1,068,981	3,952,349	5,302,497	5,032,756
総資産額 (千円)	5,983,996	7,449,224	8,627,470	8,246,958
1株当たり純資産額 (円)	1,322,996.61	3,758,185.65	4,777,025.03	4,534,014.58
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失() (円)	168,474.24	35,055.82	194,855.77	243,010.45
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	17.8	53.0	61.5	61.0
自己資本利益率 (%)	11.7	0.8	4.6	5.2
株価収益率 (倍)	-	-	-	-
配当性向 (%)	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	466,748	681,027	127,608	51,648
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,911,613	2,586,591	305,204	16,478
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	4,184,421	2,961,268	1,385,998	203,319
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	806,059	1,861,764	2,814,950	2,646,799
従業員数 (人)	4	2	2	2
(外、平均臨時雇用者数)	(0)	(1)	(11)	(8)

(注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、従業員数には企業集団からの受入出向者2名が含まれております。

6 株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価及び最低株価については、当社株式は非上場でありますので記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
2015年5月7日	全国にゴルフ場を保有するクラシックグループの中核会社である株式会社クラシックを100%親会社として、クラブ組織の企画、設立、運営及びゴルフ場、スポーツ施設、レストラン、宿泊施設、その他リゾート施設の所有・運営等を目的とした「株式会社東京クラシック」(資本金7,000千円)を設立
2016年5月14日	東京クラシッククラブのProvisional Open(ゴルフ場のみ)
2016年12月8日	東京クラシッククラブのGrand Open(ゴルフ場以外の施設を含む)

3【事業の内容】

複合型アウトドア会員制クラブ

当社の主な事業は、東京クラシッククラブの会員(以下「クラブメンバー」といいます。)によるソサエティ(クラブ)としての東京クラシッククラブの運営であり、これを単一セグメントとしています。東京クラシッククラブのアクティビティとして、メインとなるのは本ゴルフ場ですが、以下の東京クラシック馬主クラブ、クラインガルテン及びその他の併設施設を持つことで、クラブメンバーが家族で訪れて楽しむことができる環境を提供しています。クラブメンバーは審査も厳しく選ばれた方だけのソサエティにすることで、クラブメンバー同士の帰属意識、仲間意識を持てるような場を提供し、これまでにない真のカントリークラブを目指します。

ゴルフ場

本ゴルフ場は、姉妹コースの名門「北海道クラシックゴルフクラブ」をも手掛けた、帝王ジャック・ニクラス自らの設計による日本最後のコースとなる見込みです。世界トップレベルのドライビングレンジを持ち、世界最高レベルのメンテナンスが施された最高のチャンピオンコースとすることを目指しています。それだけでなく、クラブメンバーのライフステージに合わせたアクティビティの数々も提供しています。アスリートゴルファーからアベレージゴルファーまで平等に楽しめるゴルフライフを提供するだけでなく、親子3代にわたってクラブメンバーの家族全員が楽しめるクラブライフをも提供します。

馬主クラブ(HORSE OWNERS' CLUB)

クラブメンバーは乗馬のプログラムのみでなく、馬主会員として馬のお世話など、馬と過ごすクラブライフを満喫しています。馬に乗ってゴルフ場内を散策することもできます。

クラインガルテン(KLEINGARTEN)

有機・無農薬の野菜作りなどができるクラインガルテンを提供しています。抗酸化物質を沢山含む有機野菜・無農薬野菜はアンチエイジングに効果があるだけでなく、親子で野菜作りに参加していただくことは大切な食育となります。また、クラインガルテンで採れた野菜は、クラブハウスのレストランにて調理することもできます。

その他併設施設・アクティビティ

上記のほか、隣接地において東京クラシッククラブのメンバーが優先利用できる、東京クラシックキャンプは、多くのメンバーやご家族、友人の方にご利用頂いております。

[事業系統図]



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 被所有割合 (%)	関係内容
(親会社) 株式会社G&Rホールディング	大阪府 大東市	25.3	・投資業 ・投資及び融資に関するコンサルティング ・経営及び運営に関するコンサルティング	64.1 (64.0)	当社役員との兼任 1名
(親会社) 株式会社クラシック	大阪府 大東市	10	・不動産インベスト業務、アセットマネジメント業務 ・ゴルフ場等リゾート施設及びそれに関連する諸施設の経営及び運営支援 ・不動産、会員権の販売及び仲介	64.0	当社役員との兼任 2名 東京クラシッククラブ運営に関する業務委託契約 当社に対する従業員の出向

- (注) 1 議決権の被所有割合の()内は、間接所有割合の内数であります。
2 株式会社クラシックは株式会社G&Rホールディングの100%子会社であります。
3 株式会社クラシックは2018年12月31日現在1,837,179千円の債務超過の状況にありますが、これは同社の親会社である株式会社G&Rホールディングに対する長期借入金残高が15,453,598千円あるためです。なお、株式会社G&Rホールディングは債務超過の状況にありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

2019年4月30日現在

従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与
2人(8人)	-歳-月	-年-月	-円

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、従業員数には企業集団からの受入出向者2名が含まれております。
2 当社は、本ゴルフコースの運営を株式会社クラシックに委託しているため直接雇用の従業員は0名となっております。
3 当社の報告セグメントはゴルフ場事業のみであるため、セグメント情報ごとに記載しておりません。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営方針

当社のコンセプトの追求

当社は、「豊かな文化のあるべき姿を復興し、次世代へ志をつなぎ、国際社会に貢献できる人材を育成するためのクラブを創設します。」を「OURVISION」とし、最高のゴルフライフを提供するだけでなく、老若男女が自然に触れ合い、動物に触れ合う併設施設を持つことで、クラブメンバーが文化を感じ、育み、それを次世代へ引き継ぐことのできる環境を提供します。そして、それを通じて、クラブメンバーが帰属意識を持つことのできるソサエティを創り運営していくことをコンセプトとしております。そのため、プレーのみを提供する通常のゴルフ場とは本質的にコンセプトが異なっております。

当社では、上記のコンセプトを追求するため、入会審査を必要とする厳選したクラブメンバー募集活動を行います。また、併設施設の運営業者も厳選し、複合型アウトドア会員制クラブとしての魅力を高めるための最大限の努力を行ってまいります。さらに、クラブメンバーにソサエティに対する帰属意識を持ってもらえるよう、様々なイベントも行っていく予定です。

(2) 経営戦略等

クラシックグループとしての強みを活かす

クラブメンバーへの上質なサービスの追求

当社の親会社である株式会社クラシック、その子会社12社(孫会社2社を含む。)並びに株式会社クラシックの親会社であり持株会社である株式会社G&Rホールディングからなるクラシックグループは、日本全国にゴルフコース及びホテルなどを保有しており、運営や会員に対するサービスのノウハウが蓄積されております。当社はこのグループの強みを本ゴルフ場の運営においても活かして参ります。グループでの会員情報管理ノウハウを活かし、クラブメンバーの皆様一人一人の情報管理を行い、各クラブメンバーの皆様のニーズに合ったサービスを提供します。また、各種イベントを実施し、クラブメンバーの皆様が交流を深めていただける環境を提供します。

ブランド力

クラシックグループは、2016年7月に日本プロゴルフ選手権大会が開催されたゴルフコースである北海道クラシックゴルフクラブを保有するなど、卓越したブランド力を有しております。当社もクラシックグループの一員として、このブランド力を活かして育てて参ります。

当社は北海道クラシックゴルフクラブとブランドコンセプトをリンクさせることにより北海道クラシックの知名度を活かし、東京クラシックのブランドへの理解・浸透を早めます。

また、ゴルフにおけるブランド力は、一番はコース状況(設計、メンテナンス)です。設計は姉妹コースの名門「北海道クラシックゴルフクラブ」を手掛けた、帝王ジャック・ニコラスの設計であり、「私が日本で手掛けた24コースの中で最高のゴルフコースになるに違いない」とジャック自身が語っています。

コースメンテナンスにおいても、ジャックニコラス社アグロノミーチームのノウハウを活かした高い評価を得ている、北海道クラシックゴルフクラブをメンテナンスするクラシックメンテナンスチームによる世界基準のメンテナンスを実施し、世界最高レベルの品質提供を目指します。

グループネットワークを活かしたコスト構造の強化

クラシックグループは、日本全国にゴルフ場を保有する国内有数のゴルフ場オペレーション会社として、スケールメリットを活かしたローコスト化を推進しており、ゴルフ場における総務・人事・経理業務を集約することによる業務の合理化及びコース機器や材料・消耗品・ショップ商品・食材等の集中購買を行っております。

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は経営上の目標達成を判断するため、売上高及び経常利益を指標としております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

優良顧客の獲得による稼働率の確保

当社は、クラブメンバー及びその周辺の方々を中心とした厳選された方々をゴルフ場に誘客するだけでなく、複合型アウトドア会員制クラブとして認知いただくことで、会員稼働率の向上を実現し、クラブメンバーにとってお客様である同伴ビジター、紹介ビジターの確保を実現し、収益基盤の安定を図って参ります。

効率的な業務運営による経費圧縮

人員の効率的な配置並びに適正な経費配分及び経費水準を保持し、経費コントロールにより安定した収益構造を構築して参ります。

データベースの活用

最新のITシステムを導入し、顧客情報をデータベース化し、日々のマーケティングに活用することで、顧客(クラブメンバー)満足度の向上及び客単価の向上を図って参ります。なお、個人情報の取扱いには万全の注意を払っております。

2【事業等のリスク】

当社の事業等のリスクは以下のとおりです。なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 土地の賃借権喪失及び賃貸借の対象土地購入に関するリスク

本ゴルフ場の一部は土地の賃借権に基づき使用しています。当社は賃借権の保全に必要な対応を行っていますが、賃貸借契約が解除若しくは解約され、又はこれに関する重大な紛争が発生した場合には、本ゴルフ場用地の利用に支障が生じ、事業の継続に重要な悪影響を及ぼす可能性があります。また、地主との賃貸借契約には、地主が対象の土地の売却を希望する場合における当社の先買権が付されており、仮に当社が当該買取条項を行使した場合、当社は事業用不動産を自己所有とすることができず、他方で買取に必要な資金（約2,000百万円）が流出し、当社の財政状況に影響を与える可能性があります。

(2) 有利子負債への依存及び資金調達に関するリスク

当社は、本件土地等の譲受け資金、周辺土地の開発資金及び運転資金を、募集株式の払込金以外では、主として株式会社クラシックからの借入金により調達しており、総資産に占める有利子負債の割合は、2019年4月末において約37.0%となりました。今後は、資金調達手段の多様化に取り組むとともに、自己資本の充実に注力する方針ですが、金融情勢の変化等により金利水準が変動した場合や当社の信用力の低下等により資金調達に制約を受けた場合には、当社の業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、有利子負債に占める株式会社クラシックからの借入の割合は2019年4月末において93.6%です。同社との関係は良好ですが、当社に対する経営方針に変更があった場合その他の要因により同社からの借入れにつき条件の変更等がなされた場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 当社に対する社会的評価が低下するリスク

当社のコンセプトは、最高のゴルフコースでのゴルフライフを提供するだけでなく、富裕層のクラブメンバー同士の交流の場と、併設施設の利用も可能な上質なクラブライフを提供するところにあります。他方で不祥事の発生（運営会社の信用不安、中心となるクラブメンバーが反社会勢力であるという風評等）その他の理由によりクラブのイメージに対する社会的評価が低下した場合には、当社のコンセプト維持が困難となり、業績に影響を与える可能性があります。

(4) 第三者への業務委託のリスク

当社は、当社の親会社である株式会社クラシックに対し、東京クラシッククラブ、本ゴルフ場及びその他併設施設の運営を委託しています。また、本ゴルフ場に係る商標についても株式会社クラシックから使用許諾を受けております。そのため、本ゴルフ場の運営は株式会社クラシックに依存することになり、同社の当社に対する経営方針に変更があった場合、その他様々な要因により提携関係を維持できなくなった場合には、当社の業績に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 景気感応度のリスク

ゴルフ場事業は典型的なレジャー産業ですので、一般的に景気動向の影響を受けやすいといえます。したがって、景気低迷は来場者数の減少となり、売上高を減少させるリスクとなります。また、景気低迷による入場者数の減少は、ゴルフ場事業の価格競争を加速させ、収益の減少を加速させる可能性があります。

(6) ゴルフプレー人口の減少のリスク

日本全体での人口減少、レジャーの多様化等の影響によってゴルフプレー人口が減少し、結果的に来場者数の減少に繋がることで当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 季節変動性のリスク

ゴルフ場事業は季節変動性があり、来場者数は季節に応じて振幅が大きく、一般的に春・秋は来場者数が多く、夏・冬に落ち込む傾向があります。したがって、人員配置等の効率性の追求が難しく、また固定費割合が大きいゴルフ場にとって季節間の大きな繁閑差は、当社の業績及び財政状況に影響を与える可能性があります。

(8) 天候のリスク

ゴルフ場事業は典型的な「お天気産業」ですので、大熱波・大寒波、降雨、降雪、台風等の天候要因によって来場者数が減少するリスクがあります。また、台風による影響は営業面のリスクに止まらず、施設・コースの損壊被害の懸念もあり、予想外の修繕費が発生するリスクがあります。

(9) 自然災害・戦争・テロ・暴動・感染症等のリスク

東日本大震災等の大規模な災害が発生した場合には、ゴルフプレーに対する意識の冷え込み等が予想され、一時的な来場者数の減少により当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。大規模な災害の中でも、地震、津波、山火事等による影響は営業面のリスクに止まらず、施設・コースの損壊被害の懸念もあり、予想外の修繕費が発生するリスクがあります。また、国内外において戦争、テロ事件、暴動事件等が発生した場合や、エボラ出血熱、新型インフルエンザ等の治療方法が確立されていない感染症が世界的大流行(パンデミック)するなどした場合も、同様の状況が想定されることから、一時的な来場者数の減少により当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 労働集約的産業のリスク

ゴルフ場事業は、人員を多く配置した労働集約的産業であり、固定費負担が重く、一般的に損益分岐点が高い産業といえます。すなわち、ゴルフ場事業は変動比率が低いため、損益分岐点を超えて売上高が増加した場合には、超過利益を大きく享受する一方、売上高が減少したり、損益分岐点に到達できなかつたりする場合には、固定費負担から赤字体質に陥るリスクがあります。

(11) キャディを確保できないリスク

ゴルフ場事業全般として、キャディの人手不足は深刻化しており、キャディの雇用をしない営業をするゴルフ場も増えております。当社は給与、待遇等において他社と差別化することによりキャディを確保しておりますが、今後の労働市場の変化によっては、キャディを確保できずに業務に支障が生じる可能性があります。

(12) 特定の役職員への依存のリスク

当社は、本報告書提出日現在において、役員5名という組織構成です。人的資源に限りがある中、特に代表取締役である小島拓之を中心とした特定の役職員の働きに依存している面もあり、役職員に業務遂行上の支障が生じた場合や、重要な役職に就いている役職員が退職等によって社外流出した場合には、業務に支障が生じる可能性があります。

(13) 金融市場の動向のリスク

当社は、有利子負債によつての資金調達を行う予定ですが、金融市場の動向が、資金調達や支払金利に影響を与え、これらを通じて当社の業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 個人情報管理のリスク

当社は、クラブメンバー等の利用者の個人情報を保有しており、その外部漏洩に関しては細心の注意を払い、業務委託先の情報管理についても業務委託契約書中に守秘義務条項を定めておりますが、万一個人情報が漏洩した場合には、当社の信用失墜や損害賠償金の支払負担により、業績に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は以下の通りであります。

経営成績の状況

当事業年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用、所得環境の改善が続き、個人消費の持ち直しや設備投資が増加するなど景気は緩やかな回復基調で推移したものの、米中貿易摩擦の長期化に伴う中国経済の減速懸念や英国のEU離脱問題等の不確実な経済情勢の影響が懸念される状況が続いております。

当社の属するゴルフ業界においては、2015年に主要消費者層である団塊の世代の年齢が65歳を上回り、1人当たりのプレー回数が減少しており、延べ利用人数は1992年を頂点に減少傾向のまま推移しています。1人当たりのプレー単価も減少傾向にあり、ゴルフ界全体の市場は縮小傾向で推移しています。このような状況のもと、各ゴルフ場はそれぞれの特色を活かし、自社ゴルフ場の顧客の囲い込みができるかどうか収益確保の鍵となっております。

当社は、首都圏近郊に位置し、ゴルフコースは帝王ジャック・ニコラス本人の設計により世界基準のチャンピオンコースを目指して造成し、また、ゴルフコースだけでなく、「東京クラシッククラブ」を設立し、真のクラブライフを提供することで競合他社との差別化を図っております。

2016年5月にProvisional Openを迎えゴルフ場の運営を開始しました。ゴルフ場の来場者も順調に増加傾向にあり、2016年12月にはGrand Openを迎え、馬主クラブ、クラインガルテンを含めたクラブ全体の運営も開始しております。また、2015年6月より開始した株主会員の募集については、最終募集が2017年11月に好評のうちに終了しております。

これらの結果、当事業年度の経営成績は、売上高は前期比122,774千円（前期は1,012,898千円）減少の890,123千円、営業損失は169,103千円（前期は営業損失97,652千円）、経常損失は269,855千円（前期は経常損失208,825千円）、当期純損失は269,741千円（前期は当期純損失210,851千円）となりました。

財政状態の状況

当事業年度の資産の部合計は前期に比べ380,512千円減少し、8,246,958千円となりました。これは主に、売上高の減少により現金及び預金が169,770千円減少したこと及び有形固定資産の減価償却費を244,291千円計上したことによるものです。

当事業年度の負債の部合計は前期に比べ110,770千円減少し、3,214,202千円となりました。これは主に、長期借入金が117,337千円減少したことによるものです。

当事業年度の純資産合計は前期に比べ269,741千円減少し、5,032,756千円となりました。これは主に、当期純損失269,741千円を計上したことにより、繰越利益剰余金が269,741千円減少したことによるものです。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度の現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フローが51,648千円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが16,478千円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが203,319千円の支出となった結果、前事業年度末に比べ168,150千円減少し、当事業年度末には2,646,799千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、51,648千円（前期は127,608千円の使用）となりました。これは主に、税引前当期純損失267,731千円、減価償却費247,543千円、未払金の増加額39,303千円等の計上によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、16,478千円（前期は305,204千円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が18,815千円、有形固定資産の売却による収入が2,124千円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、203,319千円（前期は1,385,998千円の獲得）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出117,337千円、リース債務の返済による支出80,854千円によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

該当事項はありません。

b. 受注実績

該当事項はありません。

c. 販売実績

当事業年度における営業日数及び入場者数の状況は次のとおりであります。

項目	当事業年度 (自 2018年 5月1日 至 2019年 4月30日)
	営業日数
入場者数	25,075人

当事業年度の売上状況は次のとおりであります。

科目	当事業年度 (自 2018年 5月1日 至 2019年 4月30日)	
	金額(千円)	割合(%)
周辺施設賃料収入	3,605	0.4
グリーンフィー収入	149,214	16.8
諸経費収入	126,002	14.2
カートフィー収入	23,168	2.6
キャディフィー収入	122,006	13.7
ショップ売店収入	37,735	4.2
レストラン収入	85,810	9.6
競技収入	1,555	0.2
月会費/株主会員	251,120	28.2
入会金	65,500	7.4
その他収入	24,405	2.7
合計	890,123	100.0

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものです。

重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。財務諸表の作成に際しては、決算日における資産・負債及び会計年度における収益・費用の報告数値に影響を与える会計上の見積り及び仮定設定を行う必要があります。過去の実績やそれぞれの状況に応じて合理的と考えられる仮定設定に基づいて、継続して判断・評価及び見積りを行っております。なお、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

当事業年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等に関する分析

経営成績の分析につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1)経営成績等の状況の概要」をご参照ください。

b. 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」をご参照ください。

(3) 経営戦略の現状と見通し

経営戦略の現状と見通しにつきましては、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載しております。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資本の財源及び資金の流動性についての分析につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1)経営成績等の状況の概要」に記載しております。

必要とする資金の調達は、当社の親会社である株式会社クラシックからの長期借入によりおこなっており、当社の今後の主な資金需要としては、ゴルフ場及び周辺施設にかかる設備投資資金ですが、「第3 設備の状況」に記載のとおり、重要な設備の新設等の計画はありません。

4【経営上の重要な契約等】

当社の経営上の重要な契約等は以下のとおりです。

契約会社名	相手方の名称	契約内容	契約期間
当 社	秋元孝夫 他57名	本ゴルフ場並びに併設施設用地の賃貸借契約(注) 1	2016年 5月 1日締結 他
当 社	株式会社クラシック	本ゴルフ場運営の業務委託契約(注) 2	2015年 6月10日から2016年 6月 9日、以降1年間ごとに自動更新
当 社	株式会社クラシック	併設施設運営の建物賃貸借兼業務委託契約(注) 3	2016年12月 1日から2036年11月30日

(注) 1 契約している地主は約60名と多数であるため、一例を記載しています。

- 2 業務委託の範囲は、本ゴルフ場における固定資産及び動産の維持・管理、レストラン・売店等の運営、経理業務、諸官庁への届出、地権者対応、営業及び集客に関する業務並びに本ゴルフ場及び東京クラシッククラブにおける会員管理業務及び多目的利用に関する業務等です。また、株式会社クラシックが保有する本ゴルフ場に係る商標権の使用許諾も定められています。なお、業務委託及び商標権の使用許諾の対価として当社は株式会社クラシックに対し、実費及び損益計算書上の営業利益(但し、入会金収入を除きます。)に減価償却費を加算したものの30%を上限とした金額並びに東京クラシッククラブの入会金収入の40%を支払います。
- 3 併設施設での売上は一旦当社で計上し、同額を株式会社クラシックに業務委託費として支払います。また、賃料として月額25万円と別途定める方法により計算される併設施設の営業利益の50%を受け取ります。

5【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度中において実施いたしました当社の設備投資の総額は、65,167千円で、その主なものは次のとおりであります。

当事業年度において完成した主要設備
馬主クラブ用設備
ゴルフカート

2【主要な設備の状況】

当社は単一のセグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。
当事業年度末における内容は以下のとおりです。

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(単位：千円)						従業員数 (名) (注)4
		土地 (注)1	建物及び 建物附属 設備	構築物 (注)2	コース勘 定	その他 (注)3	合計	
東京クラシック (千葉県若葉区 和泉町)	ゴルフコース及 び施設	463,304	1,670,047	1,017,180	1,740,679	325,189	5,216,401	2

(注)1 土地には賃借権を有する部分を含みません。

2 構築物には、雨水排水設備、汚水設備、管理カート道路、進入路駐車場、給散水設備、電気設備及び空調設備等が含まれます。

3 その他には、コース施設等に関するリース資産等の取得に要した費用が含まれます。

4 当社は、本ゴルフ場の運営を株式会社クラシックに委託しております。記載している従業員数は、全てが当社企業グループからの受入出向者です。

土地の所在地	面積
千葉県若葉区和泉町	847,739.28㎡(地積合計(注)1) (うち借地権割合約73%(注)2)

(注)1 847,739.28㎡は、本ゴルフ場の開発面積です。併設施設のために予定している土地面積を併せると、合計885,349.19㎡となります。

2 借地部分は複数の土地所有者から賃借しており、賃貸人は約60名です。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

重要な設備の新設等の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,000
計	3,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2019年4月30日現在)	提出日現在発行数 (株) (2019年7月26日現在)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,110	1,110	非上場・非登録	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式です。なお、単元株式制度は採用しておらず、株式の譲渡制限を設けております。当該株式を譲渡により取得する場合、当社取締役会の承認を要します。
計	1,110	1,110	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】
該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
2015年5月7日 (注) 1	700	700	7,000	7,000	-	-
2015年6月15日 (注) 2	10	710	50,000	57,000	50,000	50,000
2015年8月10日 (注) 3	3	713	15,000	72,000	15,000	65,000
2015年9月10日 (注) 4	18	731	90,000	162,000	90,000	155,000
2015年10月13日 (注) 5	13	744	65,000	227,000	65,000	220,000
2015年11月10日 (注) 6	10	754	50,000	277,000	50,000	270,000
2015年12月10日 (注) 7	5	759	25,000	302,000	25,000	295,000
2016年1月12日 (注) 8	18	777	90,000	392,000	90,000	385,000
2016年2月10日 (注) 9	15	792	75,000	467,000	75,000	460,000
2016年3月10日 (注) 10	9	801	45,000	512,000	45,000	505,000
2016年3月10日 (注) 11	1	802	6,000	518,000	6,000	511,000
2016年4月11日 (注) 12	6	808	36,000	554,000	36,000	547,000
2016年5月10日 (注) 13	9	817	45,000	599,000	45,000	592,000
2016年5月10日 (注) 14	8	825	48,000	647,000	48,000	640,000
2016年6月10日 (注) 15	14	839	84,000	731,000	84,000	724,000
2016年7月11日 (注) 16	15	854	90,000	821,000	90,000	814,000
2016年8月10日 (注) 17	22	876	132,000	953,000	132,000	946,000
2016年9月12日 (注) 18	25	901	150,000	1,103,000	150,000	1,096,000
2016年10月11日 (注) 19	4	905	24,000	1,127,000	24,000	1,120,000
2016年10月11日 (注) 20	18	923	126,000	1,253,000	126,000	1,246,000
2016年11月10日 (注) 21	2	925	12,000	1,265,000	12,000	1,258,000
2016年11月10日 (注) 22	27	952	189,000	1,454,000	189,000	1,447,000
2016年12月12日 (注) 23	2	954	12,000	1,466,000	12,000	1,459,000
2016年12月12日 (注) 24	4	958	28,000	1,494,000	28,000	1,487,000

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2016年12月12日 (注)25	11	969	82,500	1,576,500	82,500	1,569,500
2017年1月10日 (注)26	1	970	6,000	1,582,500	6,000	1,575,500
2017年1月10日 (注)27	1	971	7,000	1,589,500	7,000	1,582,500
2017年1月10日 (注)28	15	986	112,500	1,702,000	112,500	1,695,000
2017年2月10日 (注)29	13	999	97,500	1,799,500	97,500	1,792,500
2017年3月10日 (注)30	11	1,010	82,500	1,882,000	82,500	1,875,000
2017年4月10日 (注)31	10	1,020	85,000	1,967,000	85,000	1,960,000
2017年5月10日 (注)32	8	1,028	68,000	2,035,000	68,000	2,028,000
2017年6月10日 (注)33	11	1,039	93,500	2,128,500	93,500	2,121,500
2017年7月10日 (注)34	16	1,055	136,000	2,264,500	136,000	2,257,500
2017年8月10日 (注)35	3	1,058	25,500	2,290,000	25,500	2,283,000
2017年9月11日 (注)36	2	1,060	17,000	2,307,000	17,000	2,300,000
2017年9月11日 (注)37	22	1,082	220,000	2,527,000	220,000	2,520,000
2017年10月10日 (注)38	16	1,098	160,000	2,687,000	160,000	2,680,000
2017年11月10日 (注)39	10	1,108	100,000	2,787,000	100,000	2,780,000
2017年12月11日 (注)40	2	1,110	20,000	2,807,000	20,000	2,800,000
2018年4月10日 (注)41	-	1,110	2,707,000	100,000	-	2,800,000

(注)1 発行済株式総数の増加は設立によるものであります。

2 第三者割当増資によるものであります。

発行価格 10百万円 資本組入額 5百万円

割当先 株式会社クラシック

- | | | | | | |
|----|-------------------|------|-------|-------|------|
| 3 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 4 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 5 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 6 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 7 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 8 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 9 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 10 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 11 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 12百万円 | 資本組入額 | 6百万円 |
| 12 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 12百万円 | 資本組入額 | 6百万円 |
| 13 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 10百万円 | 資本組入額 | 5百万円 |
| 14 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 12百万円 | 資本組入額 | 6百万円 |
| 15 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 12百万円 | 資本組入額 | 6百万円 |
| 16 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 12百万円 | 資本組入額 | 6百万円 |
| 17 | 一般募集増資によるものであります。 | 発行価格 | 12百万円 | 資本組入額 | 6百万円 |

18	一般募集増資によるものであります。	発行価格	12百万円	資本組入額	6百万円
19	一般募集増資によるものであります。	発行価格	12百万円	資本組入額	6百万円
20	一般募集増資によるものであります。	発行価格	14百万円	資本組入額	7百万円
21	一般募集増資によるものであります。	発行価格	12百万円	資本組入額	6百万円
22	一般募集増資によるものであります。	発行価格	14百万円	資本組入額	7百万円
23	一般募集増資によるものであります。	発行価格	12百万円	資本組入額	6百万円
24	一般募集増資によるものであります。	発行価格	14百万円	資本組入額	7百万円
25	一般募集増資によるものであります。	発行価格	15百万円	資本組入額	7.5百万円
26	一般募集増資によるものであります。	発行価格	12百万円	資本組入額	6百万円
27	一般募集増資によるものであります。	発行価格	14百万円	資本組入額	7百万円
28	一般募集増資によるものであります。	発行価格	15百万円	資本組入額	7.5百万円
29	一般募集増資によるものであります。	発行価格	15百万円	資本組入額	7.5百万円
30	一般募集増資によるものであります。	発行価格	15百万円	資本組入額	7.5百万円
31	一般募集増資によるものであります。	発行価格	17百万円	資本組入額	8.5百万円
32	一般募集増資によるものであります。	発行価格	17百万円	資本組入額	8.5百万円
33	一般募集増資によるものであります。	発行価格	17百万円	資本組入額	8.5百万円
34	一般募集増資によるものであります。	発行価格	17百万円	資本組入額	8.5百万円
35	一般募集増資によるものであります。	発行価格	17百万円	資本組入額	8.5百万円
36	一般募集増資によるものであります。	発行価格	17百万円	資本組入額	8.5百万円
37	一般募集増資によるものであります。	発行価格	20百万円	資本組入額	10百万円
38	一般募集増資によるものであります。	発行価格	20百万円	資本組入額	10百万円
39	一般募集増資によるものであります。	発行価格	20百万円	資本組入額	10百万円
40	一般募集増資によるものであります。	発行価格	20百万円	資本組入額	10百万円
41	2,707,000千円の減資を実施し、その他資本剰余金に振り替えております。				

(5) 【所有者別状況】

2019年4月30日現在

区分	株式の状況								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	2	-	272	-	-	111	385	-
所有株式数 (株)	-	2	-	997	-	-	111	1,110	-
所有株式数の割合(%)	-	0.2	-	89.8	-	-	10.0	100.0	-

(6) 【大株主の状況】

2019年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社クラシック	大阪府大東市大字龍間266番地 8	711	64.05
日本ビジネスシステムズ株式会社	東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ビル ズ森タワー16F	3	0.27
株式会社メディアドゥホールディングス	東京都千代田区一ツ橋1-1-1	3	0.27
株式会社柘出版社	東京都世田谷区玉川台2-13-2	2	0.18
日本空港ビルデング株式会社	東京都大田区羽田空港3-3-2 第1旅客ターミナルビル	2	0.18
株式会社プレナス	福岡県福岡市博多区上牟田一丁目19番21号	2	0.18
株式会社マイナビ	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル6F	2	0.18
株式会社ライカ	東京都中央区銀座三丁目4番17号	2	0.18
株式会社レオパレス21	東京都中野区本町二丁目54番11号	2	0.18
塩田建設株式会社	東京都大田区南馬込1-6-7	2	0.18
計	-	731	65.85

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,110	1,110	
単元未満株式			
発行済株式総数	1,110		
総株主の議決権		1,110	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】
該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】
該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社の配当政策における基本的な考え方は、株主の皆様に対して、より快適なゴルフのプレー環境及び複合型アウトドア会員制クラブのクラブメンバーとしての充実したクラブライフを提供することで利益の還元をし、結果的にクラブ及び株式の価値を高めるというものです。したがって、剰余金は借入金の手当、ゴルフ場及び併設施設の整備、改良等に使用いたします。将来的には、経営成績及び財政状態を勘案しながら株主への利益還元を検討していく予定ではありますが、配当実施の可能性及びその実施時期等については現時点において未定であります。

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

当社は、株主、全てのクラブメンバー及びビジターその他のステークホルダーからの信頼を確保し、企業価値を継続的に向上させていくために、経営内容を開示し、コーポレート・ガバナンスを充実させることが経営の重要な課題であると認識しております。そして、適正な経営の意思決定を図り、効率的かつ健全な業務執行体制を構築し、経営チェック機能の充実に努めております。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

a. 会社の機関の内容

当社の取締役会は、本報告書提出日現在取締役3名で構成され、法令、定款に定めるところにより会社の経営方針及び業務執行上の重要事項を決議し、取締役の業務執行を監督しております。

さらに、当社は監査役を設置しており、監査役2名は取締役会その他会議に出席し、必要に応じて意見を述べるほか、経営方針の決定過程及び業務執行を監視しております。

b. 内部統制システムの整備状況

当社は、上記各機関がそれぞれの機能を発揮することにより内部統制の充実を図っています。コーポレート・ガバナンスの基礎となる法令遵守につきましては、適宜弁護士に相談し指導を受けております。

また、会計取引の認識・測定・記録及び報告の正確性、資産・負債の保全・管理等業務の執行状況については、取締役が当社の取締役会で報告して内部統制システムが適正に機能する体制を確保しております。

さらに、会計監査人とは、情報交換、意見交換を行うなど監査の実効性と効率性の向上を目指しております。

加えて、クラブメンバーの意見をより反映させた民主的なクラブ運営を行うために、クラブメンバーで構成される理事会ほか各種運営委員会の設置も予定しております。

リスク管理体制について

当社は、業務に係るすべてのリスクについて適切に管理する体制の整備に取り組んでおります。リスクの共通認識を図るため当社の取締役会が中心となり、現在及び将来のリスクの分析を行い、課題を明確にし、今後の対策については検討を行っております。

役員報酬の内容

役員報酬等の内容は以下のとおりです。

取締役 3名 - 千円

監査役 2名 1,800千円（うち社外役員 2名 1,800千円）

取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

なお、当社取締役及び監査役の報酬額等の詳細は定款に定めがなく、報酬額等は株主総会の決議により定めず。

取締役及び監査役の員数

当社の取締役は3名以上、監査役は1名以上とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が株主総会に出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行います。また、取締役の選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

反社会的勢力排除のための体制

当社は、コンプライアンス経営の徹底及び企業防衛の観点から、反社会的勢力とは関わりを持たず、不当な要求に対しては毅然とした態度で対応し、排除することが企業としての社会的責任であることを認識します。反社会的勢力による不当請求があった場合には、個人的対応は行わず、民事及び刑事の法的対応を含め、外部専門家や行政機関、捜査機関とも緊密な連携を図り、組織的に対応します。また、平素から反社会的勢力に関する情報収集と集約に努めます。

社外監査役との責任限定契約

当社は、篠原祥哲氏及び林紀美代氏との間において、社外監査役として任務を怠ったことにより、当社に対して損害を与えた場合であっても、その職務を行うにつき、善意かつ重大な過失がないときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額までその責任を当然に免除するものとする責任限定契約を締結しております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性4名 女性1名(役員のうち女性の比率20%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	小島 拓之	1975年2月24日 生	2001年11月 2006年9月 2008年11月 2009年4月 2015年5月	PwCコンサルティング株式会社(後にIBM ビジネスコンサルティングサービス株式会社に 社名変更)入社 株式会社クラシック入社 株式会社クラシック及び同社のグループ会社11 社の代表取締役就任(現任) 株式会社G&Rホールディング取締役就任(現 任) 当社代表取締役社長就任(現任)	(注)1	0
取締役	小田 基央	1972年5月6日 生	1995年4月 2001年1月 2010年2月 2015年3月 2015年5月	株式会社アスクプランニングセンター入社 株式会社アーバンコーポレーション入社 株式会社RE WORKS代表取締役就任(現任) 株式会社クラシック取締役就任(現任) 当社取締役兼開発担当就任(現任)	(注)1	0
取締役	田部井 悟	1968年1月31日 生	1991年4月 2003年8月 2006年5月 2009年10月 2010年4月 2016年1月 2016年8月	ノースウエスト航空会社入社 パシフィックゴルフマネジメント株式会社入社 株式会社クラシック取締役就任 株式会社GOTCHA'L INNOVATION設立及び代表取締 役就任(現任) 株式会社ハッピーバレー常務取締役就任 株式会社クラシック入社 当社取締役兼運営担当就任(現任)	(注)2	0
監査役	篠原 祥哲	1935年3月1日	1963年2月 1999年5月 2001年6月 2002年7月 2002年11月 2011年6月 2012年4月 2015年6月 2015年8月	公認会計士開業登録 現在に至る 朝日監査法人(現有限責任あずさ監査法人)副 理事長就任 同監査法人代表社員相談役就任 株式会社篠原経営経済研究所代表取締役就任 (現任) NPOおおさか大学起業支援機構設立代表理事 就任(現任) 株式会社T S Iホールディングス社外取締役就 任(現任) 積水ハウス株式会社社外監査役就任(現任) 岩谷産業株式会社社外監査役就任(現任) 当社社外監査役就任(現任)	(注)3	0
監査役	林 紀美代	1958年4月29日	1982年10月 1986年3月 2009年10月 2010年10月 2014年6月 2015年8月	監査法人朝日会計社(現有限責任あずさ監査法 人)入社 公認会計士登録 林紀美代公認会計士事務所代表(現任) イワタニダイレクト株式会社(現イワタニアイ コレクト株式会社)社外監査役就任(現任) ナノフoton株式会社社外監査役就任(現任) 当社社外監査役就任(現任)	(注)3	0
計						0

(注)1 2015年5月7日(当社設立日)から、10年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

2 2016年8月29日(就任日)から、10年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

3 2015年8月7日(就任日)から、10年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

4 監査役篠原祥哲及び林紀美代は社外監査役であります。

社外役員に関する事項

当社では社外監査役2名として篠原祥哲氏及び林紀美代氏とを選任しています。両氏につきましては公認会計士としての専門的見地及び他の会社の社外役員としての知識、経験を、当社の監査体制の強化に活かしていただくため、社外監査役として就任いただきました。

社外監査役は取締役会の監視、監督機能の強化、透明性の高い経営の確保に寄与しています。また、会計の専門家としての知識や経験にもとづくアドバイスを受けることで、重要な業務執行の決定を適切に行うことが可能となる体制を確保することができます。

当該2名の社外監査役と当社間に利益相反が生じるおそれがある人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・ 監査役篠原祥哲氏は、株式会社篠原経営経済研究所の代表取締役、NPOおおさか大学起業支援機構の設立代表理事、株式会社TSIホールディングスの社外取締役、積水ハウス株式会社及び岩谷産業株式会社の社外監査役であります。当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。
- ・ 監査役林紀美代氏は、林紀美代公認会計士事務所の所長、イワタニアイコレクト株式会社及びナノフoton株式会社の社外監査役であります。当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役は、会計帳簿及び重要な決裁書類を閲覧し、取締役会に出席し必要があると認めたときは意見を表明するほか、代表取締役及び各取締役と定期的に意見交換を行い経営の意思決定の妥当性について監査を実施しております。

内部監査の状況

当社では、内部監査、監査役監査及び会計監査が連携して有効に行われるよう、随時情報の共有化を図り、会計監査人とも定期的に意見交換を行っております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

アイリス監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

業務執行社員 吉井 清信

業務執行社員 鈴木 修司

(注)継続監査年数につきましては、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者の構成につきましては、公認会計士1名であります。

d. 監査法人の選定方針と理由

当社は会計監査人の選定に際し、監査法人の概要、規模、監査の実施体制、監査費用等を総合的に判断しております。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役は会計監査人に対して、監査役が定めた基準（妥当性、独立性、適格性等）に基づき評価・審議した結果、会計監査人の職務執行に問題がないことを確認しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
5,700	-	4,500	-

b. その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

c. 監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

特に方針は定めておりませんが、前事業年度の監査実績、業務の内容、リスクの所在、金額の妥当性等を総合的に勘案して決定しております。

e. 監査役が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積もりの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行った結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【 役員の報酬等 】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

なお、役員報酬の内容につきましては、「 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」に記載しております。

(5) 【 株式の保有状況 】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1963年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（2018年5月1日から2019年4月30日まで）の財務諸表について、監査法人アイリスにより監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成していません。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,814,950	2,646,799
売掛金	47,163	40,500
商品	21,430	23,578
貯蔵品	1,438	2,226
その他	70,360	65,964
流動資産合計	2,955,343	2,779,069
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,313,755,68	1,313,333,398
建物附属設備（純額）	1366,466	1336,648
構築物（純額）	11,071,431	11,017,180
機械及び装置（純額）	1116,260	195,482
工具、器具及び備品（純額）	150,567	139,153
コース勘定	1,740,679	1,740,679
土地	3451,881	3463,304
リース資産（純額）	1237,091	1190,553
有形固定資産合計	5,409,945	5,216,401
無形固定資産		
借地権	100,866	100,866
ソフトウェア	7,090	5,214
無形固定資産合計	107,957	106,081
投資その他の資産		
出資金	100,001	100,001
その他	31,885	30,512
投資その他の資産合計	131,886	130,513
固定資産合計	5,649,789	5,452,996
繰延資産		
開発費	22,338	14,892
繰延資産合計	22,338	14,892
資産合計	8,627,470	8,246,958

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,209	4,193
1年内返済予定の長期借入金	2, 3 128,004	2, 3 128,004
リース債務	81,793	81,326
未払金	2 64,438	2 103,742
未払法人税等	2,010	2,010
その他	2 7,247	2 28,360
流動負債合計	287,703	347,637
固定負債		
長期借入金	2, 3 2,847,989	2, 3 2,730,652
長期末払金	14,041	22,067
リース債務	174,591	112,981
預り保証金	648	864
固定負債合計	3,037,269	2,866,565
負債合計	3,324,973	3,214,202
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	2,800,000	2,800,000
その他資本剰余金	2,707,000	2,707,000
資本剰余金合計	5,507,000	5,507,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	304,502	574,243
利益剰余金合計	304,502	574,243
株主資本合計	5,302,497	5,032,756
純資産合計	5,302,497	5,032,756
負債純資産合計	8,627,470	8,246,958

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)	当事業年度 (自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)
売上高	1,012,898	890,123
売上原価	54,179	56,778
売上総利益	958,718	833,345
販売費及び一般管理費	1, 2 1,056,371	1, 2 1,002,449
営業損失()	97,652	169,103
営業外収益	3 955	3 3,915
営業外費用	2, 4 112,127	2, 4 104,667
経常損失()	208,825	269,855
特別利益	-	2,124
特別損失	16	-
税引前当期純損失()	208,841	267,731
法人税、住民税及び事業税	2,010	2,010
法人税等合計	2,010	2,010
当期純損失()	210,851	269,741

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年5月1日 至 2018年4月30日）

(単位：千円)

	株主資本								純資産合計
	資本金	新株式申込 証拠金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
			資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,967,000	119,000	1,960,000	-	1,960,000	93,650	93,650	3,952,349	3,952,349
当期変動額									
新株の発行	840,000	119,000	840,000	-	840,000	-	-	1,561,000	1,561,000
減資	2,707,000	-	-	2,707,000	2,707,000	-	-	-	-
当期純損失 ()	-	-	-	-	-	210,851	210,851	210,851	210,851
当期変動額合計	1,867,000	119,000	840,000	2,707,000	3,547,000	210,851	210,851	1,350,148	1,350,148
当期末残高	100,000	-	2,800,000	2,707,000	5,507,000	304,502	304,502	5,302,497	5,302,497

当事業年度（自 2018年5月1日 至 2019年4月30日）

(単位：千円)

	株主資本								純資産合計
	資本金	新株式申込 証拠金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
			資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	100,000	-	2,800,000	2,707,000	5,507,000	304,502	304,502	5,302,497	5,302,497
当期変動額									
当期純損失 ()	-	-	-	-	-	269,741	269,741	269,741	269,741
当期変動額合計	-	-	-	-	-	269,741	269,741	269,741	269,741
当期末残高	100,000	-	2,800,000	2,707,000	5,507,000	574,243	574,243	5,032,756	5,032,756

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)	当事業年度 (自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	208,841	267,731
減価償却費	242,142	247,543
繰延資産償却額	7,446	7,446
受取利息及び受取配当金	395	395
支払利息	104,321	104,321
固定資産売却損益(は益)	16	2,124
売上債権の増減額(は増加)	5,264	6,662
たな卸資産の増減額(は増加)	4,964	2,935
仕入債務の増減額(は減少)	1,262	16
未払金の増減額(は減少)	145,868	39,303
未収消費税等の増減額(は増加)	18,954	9,663
その他	13,124	15,844
小計	6,841	157,583
利息及び配当金の受取額	395	395
利息の支払額	104,321	104,321
法人税等の支払額	16,841	2,010
営業活動によるキャッシュ・フロー	127,608	51,648
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	171,886	18,815
有形固定資産の売却による収入	-	2,124
無形固定資産の取得による支出	5,350	-
長期前払費用の増加額	31,885	-
出資金の払込による支出	100,000	-
その他	3,917	212
投資活動によるキャッシュ・フロー	305,204	16,478
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	128,004	117,337
株式の発行による収入	1,561,000	-
リース債務の返済による支出	46,043	80,854
長期未払金の返済による支出	953	5,128
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,385,998	203,319
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	953,186	168,150
現金及び現金同等物の期首残高	1,861,764	2,814,950
現金及び現金同等物の期末残高	2,814,950	2,646,799

【注記事項】

(重要な会計方針)

(1)資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産

- ・商品及び貯蔵品 最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(2)固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

- ・建物・建物附属設備・構築物 定額法
- ・機械及び装置・工具、器具及び備品 定率法

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

リース資産

- ・所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
- ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3)繰延資産の処理方法

株式交付費 株式交付費は、支出時に全額費用処理しております。

開発費 開発費は、5年間で每期均等額を償却しております。

(4)キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(5)その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式にしております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年4月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中でありません。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)
有形固定資産	424,164千円	655,792千円

2 関係会社項目

関係会社に関する負債には次のものがあります。

	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)
流動負債		
未払金	39,795千円	79,207千円
1年内返済予定の長期借入金	128,004	128,004
その他	1,108	2,107
固定負債		
長期借入金	2,847,989	2,730,652

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)
建物	865,794千円	842,381千円
土地	400,000	400,000
計	1,265,794	1,305,685

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)
1年内返済予定の長期借入金	128,004千円	128,004千円
長期借入金	2,847,989	2,730,652

(損益計算書関係)

- 1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度4%、当事業年度4%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度96%、当事業年度96%であります。販売費及び一般管理費のうち主要なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)	当事業年度 (自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)
販売促進費	14,662千円	17,143千円
広告宣伝費	26,020	18,449
派遣人件費	32,847	24,021
業務委託費	43,646	41,147
運營業務委託費	415,283	371,754
消耗品費	19,104	18,604
減価償却費	242,142	246,167

- 2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)	当事業年度 (自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)
運營業務委託費	415,283千円	371,754千円
支払利息	97,588	89,152

- 3 営業外収益のうち主要なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)	当事業年度 (自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)
受取利息	395千円	509千円
雑収入	559	3,406

4 営業外費用のうち主要なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)	当事業年度 (自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)
株式交付費	220千円	-千円
支払利息	104,321	96,224
開発費償却	7,446	7,446
雑損失	140	997

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	1,020	90	-	1,110
合計	1,020	90	-	1,110
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

(注) 普通株式の株式数の増加は、一般募集による90株であります。

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	1,110	-	-	1,110
合計	1,110	-	-	1,110
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)	当事業年度 (自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)
現金及び預金勘定	2,814,950千円	2,646,799千円
現金及び現金同等物	2,814,950千円	2,646,799千円

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

店舗什器、クラブハウスロッカー等(「工具、器具及び備品」)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針(2)固定資産の減価償却の方法に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)
1年内	774	516
1年超	516	-
合計	1,290	516

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は資金運用については、短期的な預金及び有価証券等に限定する方針であり、リスクのある金融商品の取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

主な金融商品は現金及び預金、未払金及び長期借入金であります。リスクは僅少であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

リスクのある金融商品の取引を行わない方針であり、特段のリスク管理体制は必要ありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

前事業年度(2018年4月30日)

	貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,814,950	2,814,950	-
資産計	2,814,950	2,814,950	-
(2) 長期借入金(1年内含む)	2,975,993	2,975,993	-
負債計	2,975,993	2,975,993	-

当事業年度(2019年4月30日)

	貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,646,799	2,646,799	-
資産計	2,646,799	2,646,799	-
(2) 長期借入金(1年内含む)	2,858,656	2,858,656	-
負債計	2,858,656	2,858,656	-

(注1)金融商品の時価の算定方法に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負 債

(2) 長期借入金(1年内含む)

長期借入金は、変動金利によるもので短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は資金調達実行後、大きく異なっていないため時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2)長期借入金の決算日後の返済予定額
前事業年度(2018年4月30日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超(千円)
長期借入金	128,004	128,004	128,004	128,004	128,004	2,335,973

当事業年度(2019年4月30日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超(千円)
長期借入金	128,004	128,004	128,004	128,004	128,004	2,218,636

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度	当事業年度
繰延税金資産		
繰越欠損金	101,770千円	184,089千円
未払事業税	-	-
その他	752	2,954
繰延税金資産小計	102,523	187,044
評価性引当額	102,523	187,044
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金資産純額	-	-

2.法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度	当事業年度
法定実効税率 (調整)	税引前当期純損失を計上 しているため、記載して おりません。	税引前当期純損失を計上 しているため、記載して おりません。
交際費等永久に損金に算入されない項目		
住民税均等割		
評価性引当額の増減		
税効果会計適用後の法人税等の負担率		

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)

当社の報告セグメントはゴルフ場事業のみであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)

当社の報告セグメントはゴルフ場事業のみであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載事項を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載事項を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る)

前事業年度(自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)

種類	会社名称	所在地	資本金 (千円)	事業内容	議決権等の 所有(被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	株式会社 クラシック	大阪府 大東市	10,000	不動産 ゴルフ場 運営	被所有 直接 (64.0%)	東京クラシック クラブ運営に関 する業務委託 役員の兼任 従業員の出向	事業資金の 借入(注1)	-	1年内返済 予定の長期 借入	128,004
							事業資金の 返済	128,004	長期借入金	2,847,989
							利息の支払	97,588	-	-
							業務委託料 の支払(注 2)	486,537	未払金	39,152

当事業年度(自 2018年5月1日 至 2019年4月30日)

種類	会社名称	所在地	資本金 (千円)	事業内容	議決権等の 所有(被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	株式会社 クラシック	大阪府 大東市	10,000	不動産 ゴルフ場 運営	被所有 直接 (64.0%)	東京クラシック クラブ運営に関 する業務委託 役員の兼任 従業員の出向	事業資金の 借入(注1)	-	1年内返済 予定の長期 借入	128,004
							事業資金の 返済	128,004	長期借入金	2,730,652
							利息の支払	89,152	-	-
							業務委託料 の支払(注 2)	431,704	未払金	78,564

(注) 1. 事業資金の借入については、市場金利を勘案しております。

2. 業務委託料の支払については、業務の内容をもとに両社の合意に基づき決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社G&Rホールディング(非上場)

株式会社クラシック(非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (2018年 4月30日)	当事業年度 (2019年 4月30日)
1株当たり純資産額	4,777,025.03円	4,534,014.58円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額 (千円)	5,302,497	5,032,756
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額 (千円)	5,302,497	5,032,756
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数 (株)	1,110	1,110

	前事業年度 (自 2017年 5月 1日 至 2018年 4月30日)	当事業年度 (自 2018年 5月 1日 至 2019年 4月30日)
1株当たり当期純損失 ()	194,855.77円	243,010.45円
(算定上の基礎)		
当期純損失 () (千円)	210,851	269,741
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る当期純損失 () (千円)	210,851	269,741
普通株式の期中平均株式数 (株)	1,082	1,110

(注) 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

該当事項はありません。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,444,700	-	-	1,444,700	111,302	42,170	1,333,398
建物附属設備	417,969	-	-	417,969	81,320	29,817	336,648
構築物	1,204,677	15,273	-	1,219,951	202,770	69,524	1,017,180
機械及び装置	182,510	-	-	182,510	87,027	20,777	95,482
工具、器具及び備品	96,699	5,273	-	101,972	62,818	16,686	39,153
コース勘定	1,740,679	-	-	1,740,679	-	-	1,740,679
土地	451,881	11,422	-	463,304	-	-	463,304
リース資産	294,991	33,197	27,084	301,105	110,551	65,316	190,553
有形固定資産計	5,834,110	65,167	27,084	5,872,194	655,792	244,291	5,216,401
無形固定資産							
借地権	100,866	-	-	-	-	-	100,866
ソフトウェア	5,214	-	-	-	-	1,875	5,214
無形固定資産計	106,081	-	-	-	-	1,875	106,081

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

増加	構築物	馬主クラブ	15,273千円
	器具備品(車)	ゴルフカート	2,349千円
	器具備品(車)	馬主クラブ	2,923千円
	リース	ゴルフカート	33,197千円
	土地	馬主クラブ	11,422千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	128,004	128,004	3.2	-
1年以内に返済予定のリース債務	81,793	81,326	7.6	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,847,989	2,730,652	3.2	2020年～2041年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	174,591	112,981	7.6	2020年～2041年
合計	3,232,378	3,052,964	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金	128,004	128,004	128,004	128,004
リース債務	57,858	29,663	18,578	6,881

【引当金明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

(単位：千円)

区分		金額
現金		3,625
預金の種類	普通預金	2,643,133
	別段預金	41
	小計	2,643,174
合計		2,646,799

ロ．売掛金

相手先別内訳

(単位：千円)

相手先	金額
V I S A	9,025
J C B	8,649
ダイナース	2,987
その他	19,839
合計	40,500

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
47,163	835,087	841,749	40,500	95.4	19.16

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ハ．商品

(単位：千円)

区分	金額
ショップ 衣類等	20,057
レストラン 飲料	1,649
その他	1,870
合計	23,578

二.貯蔵品

(単位:千円)

区分	金額
ハウスアメニティー	1,609
その他	616
合計	2,226

流動負債
買掛金

(単位:千円)

相手先	金額
(株)いまでや	498
(有)布施青果店	453
鹿島食品(株)	427
その他	2,813
合計	4,193

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	5月1日から4月30日まで
定時株主総会	7月中
基準日	4月30日
株券の種類	1株券、10株券、100株券
剰余金の配当の基準日	4月30日
1単元の株式数	-
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料	当社 該当ありません。 該当ありません。 当社規定の手数料 当社規定の手数料
単元未満株式の買取り 取次場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	該当ありません。 該当ありません。 該当ありません。 該当ありません。
公告掲載方法	官報に掲載して行う。
株主に対する特典	特記事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は上場会社ではありませんので、金融商品取引法第24条の7第1項の適用がありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類

第3期(自 2017年5月1日 至 2018年4月30日)

2018年7月30日近畿財務局長に提出

(2)半期報告書

第4期中(自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)

2019年1月29日近畿財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2019年7月26日

株式会社東京クラシック

取締役会 御中

監査法人アイリス

業務執行社員 公認会計士 吉井 清信

業務執行社員 公認会計士 鈴木 修司

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社東京クラシックの2018年5月1日から2019年4月30日までの第4期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社東京クラシックの2019年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。